

# 乙 貞

第120号 通巻21巻 第5号

2002年1月10日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎・fax 077-585-4397

〒524-0212

守山市服部町2250番地

新年 あけましておめでとうございます。

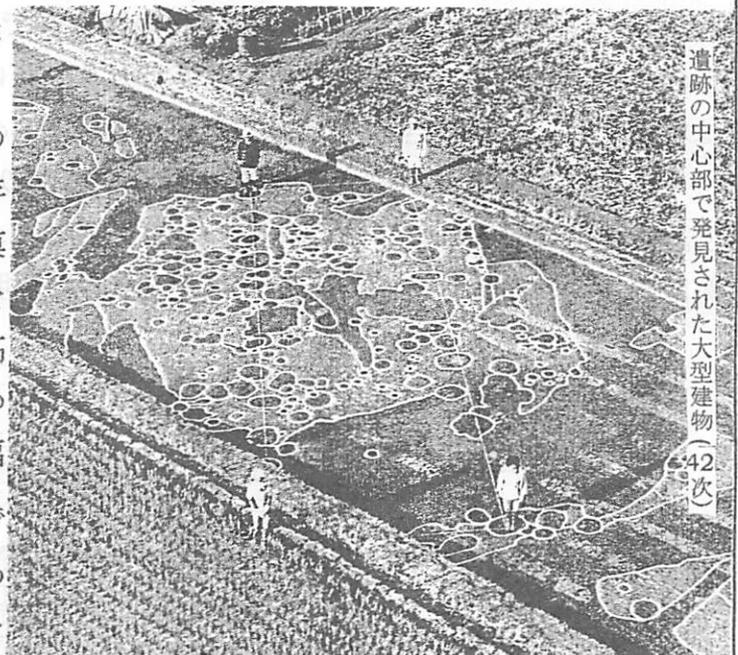
厳しい寒さに手も凍る日々ですが、発掘現場では昨年の調査を振り返りながら、今年の抱負などをにぎやかに語っています。今年も良い調査成果をあげられますように。

## ☆下之郷遺跡が国史跡となる☆

昨年の11月16日、文部科学大臣の諮問機関である文化審議会から下之郷遺跡を国指定史跡とする答申がありました。国の史跡とは、文化財保護法に基づき、我が国の歴史を考える上で欠くことのできない重要な遺跡等を保護する措置で、これにより遺跡が将来にわたって保存されることとなります。今回指定される範囲は、3条の環濠が周回している7畝のうち、遺跡の中心部から東側にかけての農地を主とする約3.3畝で、土地権利者の同意があった範囲です。下之郷遺跡（約25畝）

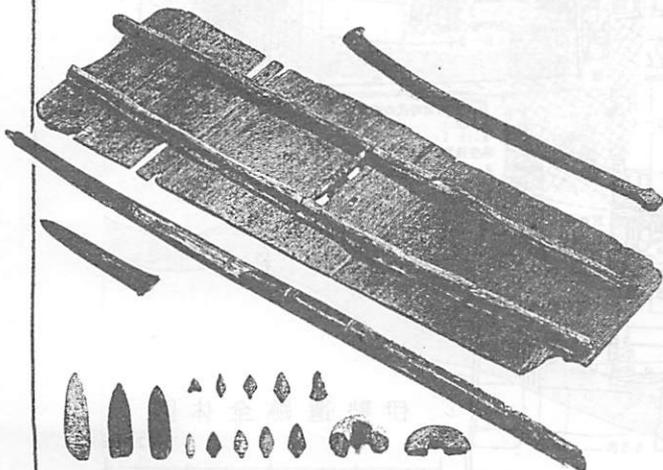
は、1980年に下水道工事に伴う調査で発見され、これまでに48次の調査が行われています。

東西約670m、南北470mの範囲に最多で9重の環濠がめぐる、弥生時代中期（今から約2100年前）の巨大な環濠集落跡で、全国でも屈指の規模を誇ります。集落の中央部には、遺跡の中枢部を区画する溝や床面積が56㎡もある棟持柱付の高床建物、円形や方形の壁立式平地住居などが見つかっています。集落の周囲に掘られた環濠は、幅5～8m、深さが1.5～2mほどもある水濠です。これまでの調査では、戦いに使われたと思われる武器・武具、それから木製の農耕具、人間を



遺跡の中心部で発見された大型建物(42次)

かたどった木像（木偶）、熱帯ジャポニカの稲粍、フナやイノシシの骨を代表とする動物の骨や昆虫、ウリやノブドウなどの自然遺体など当時の社会や生活、自然環境を知るうえで大変貴重な出土品が発掘されています。市では、今回の指定を受けて、市民の皆さんや学識経験者の意見を反映した公園構想を策定し、親しまれる遺跡公園づくりを目指します。



発見された戦いの道具(23次ほか)

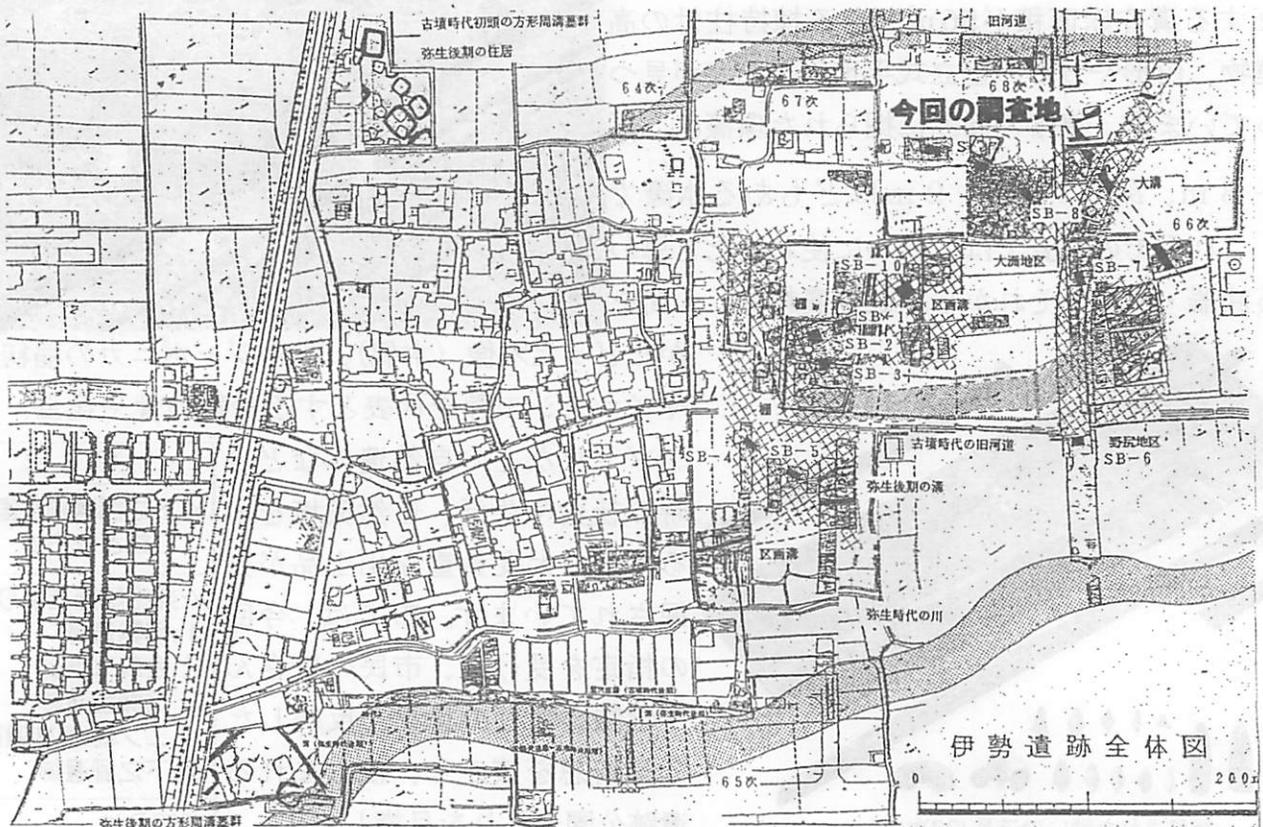
### 目次

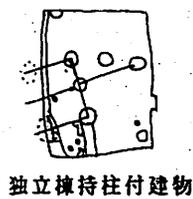
☆下之郷遺跡が国史跡となる☆	1p
☆発掘調査だより☆	2p
1.伊勢遺跡	
2.金森東遺跡	3p
3.焰魔堂遺跡	
4.二ノ畦・横枕遺跡	4p
5.下之郷遺跡	
お知らせ	4p

# ☆発掘調査だより☆ 174次

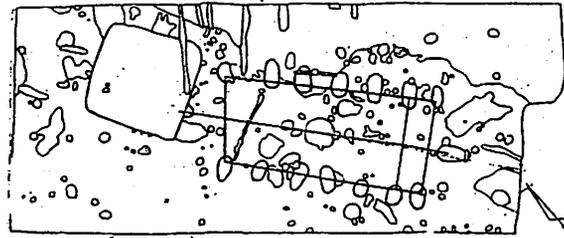
## 1. 伊勢遺跡の調査 ——新たに大形竪穴住居と独立棟持柱付大型建物を発見——

平成13年9月5日より阿村町地先で伊勢遺跡の範囲確認のため重要遺跡確認調査を実施してきました。その結果、平成6年に一部みつかった独立棟持柱付き大型建物の規模や内容が確定したほか、新たに大型棟持柱付き建物と大型竪穴建物が見つかりました。一部確認されていたSB-9は、桁列の柱列が全て確認されたほか、棟持柱も確認され、1間×5間(4.5×9m)の規模であることが確定しました。これはSB-4.5.8と同じ規模・形式のものであり、梁側の壁から外側に2.5m離れた位置に棟持柱が位置する点でも共通していて、規格的な建物群であることがわかります。さらに、この建物から北へ18.4m離れた地点に棟持柱付き建物が新たに見つかりました。この建物は1間×5間の独立棟持柱建物で、南の妻側にテラス状の露台(ろだい)が付設される点に特徴があります。この建物は梁間5m、桁行10.5m、床面積約52㎡の規模で、規格的な建物群の中でもやや規模が大きいものです。SB-12とSB-9、SB-9とSB-8、SB-4とSB-5の棟持柱間の距離は18.4mと等距離であること、遺跡中心部に向かって8°から12°内側に屈折して建てられていることから計画的に配置されている可能性があります。現在までに、これらの建物は約220m程の円周上に見つまっていることから、中心部の方形区画の周囲に丸く大型建物群が配置されていた可能性があります。これらの建物は祭殿と考えられ、中心部では見つかっていない建物群です。この建物群の外側から一辺13.6×13.8mの方形の竪穴建物がみつかりました。規模が大きいだけでなく、壁際にレンガ状の四角い板を置き、床は粘土を25cm程敷き固めた後、良質の粘土を8cm程貼った上で焼成し、床を形成しています。このように床・壁に特殊な設備を持つ竪穴であり、工房など特別な機能を持つ建物と推定されます。この竪穴建物は最小限の調査にとどめていて、来年度に本格調査を実施する予定です。伊勢遺跡は未調査の部分も多く、今後の調査で全容の解明が期待されます。(伴野)

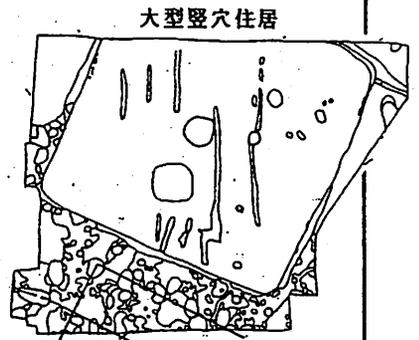




独立棟持柱付建物



独立棟持柱付建物



独立棟持柱付建物

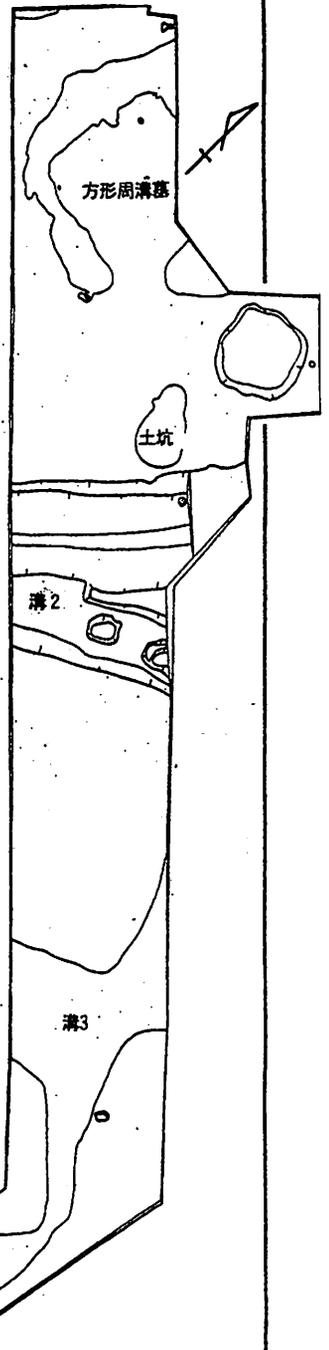
### 伊勢遺跡で発見された建物群

## 2. 金森東遺跡の調査 (第30次調査)

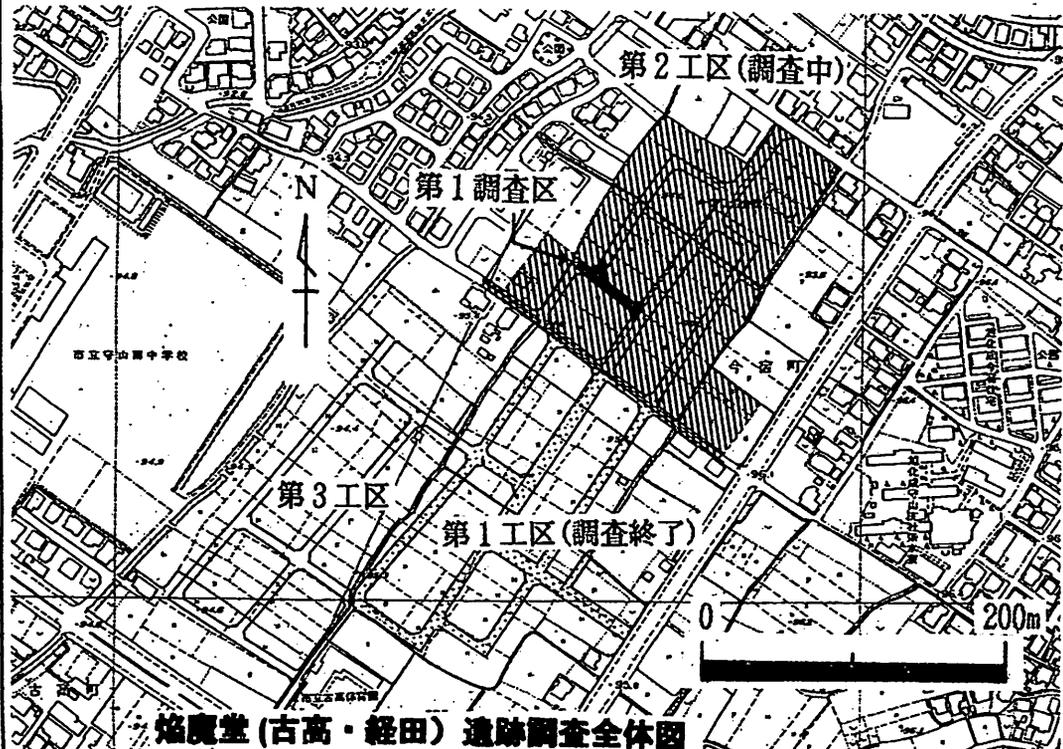
10月から守山高校グラウンド横の第Ⅱ工区を調査しています。T-2の下層(田んぼの地表面から約1.5m下)からは浅い谷と倒木が見つかりました。谷の埋土には沢山の葉っぱやドングリなどの木の葉が含まれており、当時谷の周辺が木の生い茂った森や林であったことが想像できます。時期は土器が出土していないため、明確にはわかりませんが、おそらく縄文時代の後期頃ではないかと考えられます。(大岡)

## 3. 焰魔堂(古高・経田)遺跡の調査

11月下旬より第2工区(第1工区の北東側)の調査を開始しました。今回の調査地からは、方形周溝墓1基(弥生後期～古墳前期頃)、溝1(弥生後期～古墳前期頃)、溝2(溝1に切られていて、詳細な時期は不明です)、溝3(いくつか切り合いがあり、北側の浅い部分では弥生中期の土器片が集中して出土しています)などが見つかりました。次は、南東側へと調査を進めて行く予定です。(藤原)



第1調査区平面



焰魔堂(古高・経田)遺跡調査全体図

#### 4. 二ノ畦・横枕遺跡 (第46次) の調査

下之郷町字八代において、宅地造成に伴う発掘調査を実施しました。調査は計画地のうち道路予定分の約200㎡が対象です。遺構は掘立柱建物、溝、土坑、ピットを検出しました。掘立柱建物は3間×3間以上の大きさと思われ、調査区外へと広がります。建物の柱穴からは、古墳時代後期頃の須恵器が出土しました。溝のうちの1条は、幅が約10mもある大溝で、北東から南西方向にかけて調査区を縦断するようにはしり、最も深いところでは約90cmもあります。遺物は、溝底近くで受口状口縁甕が出土しており、特徴から古墳時代前期の溝と考えられます。(畑本)

#### 5. 下之郷遺跡 (第47・48次) の調査

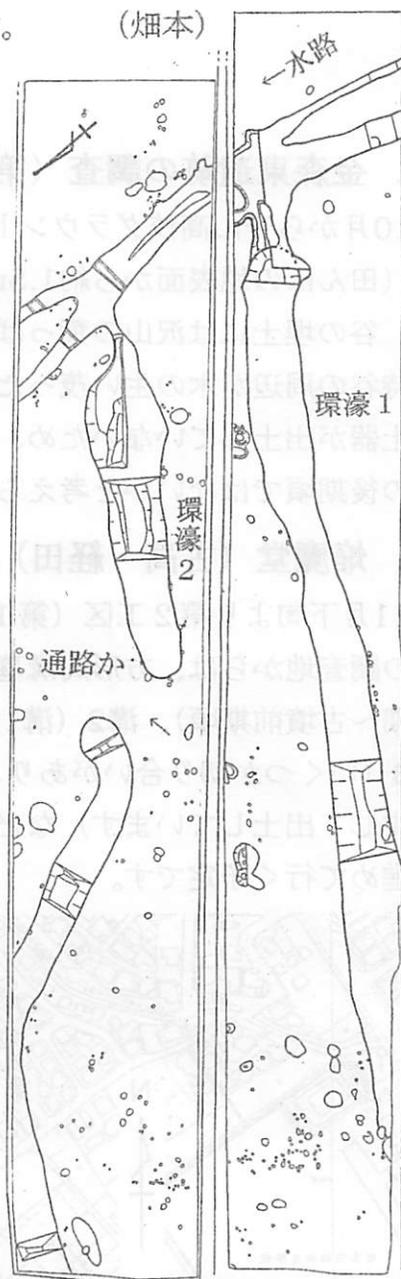
下之郷町地先にて共同住宅2件が建築されることとなり、下之郷遺跡の範囲にあたっていたため、事前の確認調査を実施しました。その結果、下之郷遺跡の範囲の南限よりさらに外側から流れてくる水路跡とそれに接する環濠2条が検出されました。環濠の規模は幅約3m、深さ約2mを測るもので、濠の中には水がたまっていたことが土層の観察からうかがえます。調査地周辺の全容は判然としませんが、今回の場所は下之郷遺跡南辺部にあたり、集落の外部の小河川などから環濠内に水を導き入れる地点だったのかもしれませんが、また、2条の環濠のうち内側のほうは、一部が2m程とぎれている場所が確認されました。環濠の内側には住居跡などが推定されるため、集落域への出入りをする通路となっていたと考えられます。今回検出した環濠2条については、確認のため一部を掘削した際に、弥生中期(IV様式前半)の土器片や木材が出土しました。(川畑)

### 市内の文化財行事 お知らせ

埋蔵文化財センター友の会では、来る1月21日(月)に大阪歴史博物館(NHK大阪放送会館)の見学会を催します。

みどころは、誕生したての新博物館の展示見学と現在開催中の新発見考古速報展「発掘された・・・日本列島2001」となります。新発見考古速報展は、毎年日本中で調査されている遺跡の中で、特に注目を集めた遺跡の成果展で、これまで守山市からは下之郷遺跡や下長遺跡の出土品などが紹介されてきました。今年の展示会では、滋賀県から信楽宮関連遺跡群の展示がされています。

友の会では、今後も話題に富んだ遺跡や文化財の見学会を行います。次々回は、3月16日(土)大津市の遺跡群見学会と今後の打ち合わせなどを予定しています。皆様ふるってご参加のほどお願いいたします。なお、会員でない方でも同行を希望される方は、埋蔵文化財センター友の会事務局の方へお問合せください。(Tel) 585-4397



下之郷遺跡47・48次調査平面図

—編集後記—

昨年暮れに催された伊勢遺跡の現地説明会には見学者が約1000人!! 現在の生活の中で、皆が何に関心をもたれてるのか。遺跡の魅力と可能性を問うていきたい。(k記)